

# 金つなぎNEWS

編集発行人 広野光子

令和7年10月

Vol. 20(会創設30周年記念号)

## 奇跡のような♪、…30年！

皆さま、こんにちは。 その後も変わりなくお元気ですか！ 全世界に1623人の会員を擁する「がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会(金つなぎの会)」は、ことし会創設30周年を迎え、「大阪・関西万博見学」と「熊野大花火協賛 金つなぎ逝者鎮魂・生者安寧～祈念の海花火」の2大記念事業を粛々と催行。 あとは、「第15回名張で学ぶがん医療」(名張adsホール＝730人収容)を残すばかりとなりました。 この間、最初の10年は各自の大病と向き合い、【自助努力・身の丈サイズ】の患者会活動を継続してがん勝ち抜き、次の10年は積み上げた闘病事例を【金つなぎの勝ち抜き経験則】と位置づけ、大阪府や三重県の委託事業(「いのちの出前授業＝名張市・比奈知小学校、南中学。 大阪市・鶴見橋中学、羽衣学園高校」ほか)、がんや難病に悩む患者さんやご家族に寄り添う「名張市がん・難病相談」とNTT西日本大阪病院(現・大阪けいさつ病院)「がん・なんでも相談」など、自分のことよりも【誰かのために何かのできる幸せ】に注力した20年目でした。

直近の10年は、抗がん講演会の継続と、後援事業として「生命の駅伝(上村真由実行委員長⇒上村泰子理事長)」への協力を惜しむことなく、とりわけ今も蔓延し続ける新型コロナ・異形コロナウイルスに負けない患者会活動は、特筆に値するでしょう。 コロナ騒ぎの4年間、定例の行事を一度も休むことなく、ZOOM勉強会を立ち上げ、NTT西日本大阪病院リハビリ科のご協力を得て、病に負けない心身づくりに励みました。【旅は癒し】をモットーに非日常療法にも取り組み、通算1000回超の旅を続けた過程で、参加者の誰もが毎回、「奇跡のような」と感じる不思議の力に助けられて【自然治癒力・自己免疫力】を向上させ、元気な患者会活動を続けてきました。

マスコミ各社さまの【時代の先を読む取材活動】を追いつきに、「生き延びたい！」と願う読者・病友がたの負託に応えて共に歩んだ30年は、まことに感無量です。 私たちは次の周年記念に向かって、今日からまた【明るく・強く・前向き】に、「きっと良くなる・必ず良くなる」と信じて、さあ、一緒に力強い一歩を踏み出しましょう！

わが家の居間に「奇跡のような♪」と添え書きをしたポスター大の「大阪・関西万博」の報告書が張り出されています。 まるで奇跡のように、15枚もの入場券がNET予約で叶い、必ず見学したいと願った「パソナパビリオン」の見学にもお招きをいただき、



一人の落後者もなく、朝から夕刻まで万博を満喫しました

同社の若本博隆社長(現会長)がお出迎えくださるという、信じられないような体験もいただきました(広野光子)



若本社長と広野代表